

あしたの風

第91・92号(合併号)
令和3年2月1日発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

——— 秋 田 市 の 生 涯 学 習 ———



第42回秋田市生涯学習奨励員研究大会
(令和2年11月17日)

～たまには、古文書パラダイス～

☆☆ 中央地区 ☆☆

暮らしの間

生涯学習奨励員 佐々木 孝

人は生まれた時から、その生を全うするまで、幼年期、青年期、壮年期、中高年期のライフステージが訪れる。

若い頃は、元気で希望に満ちた毎日がいつまでも続くと樂觀し、やがて退職の時を迎える。気が付けばそれは、あつと言う間の出来事である。

たまたま、途中で気が付いた人は、自らの歩みの記録に、何か一つでも、自分らしさを取り入れようとする。

それは、個人的な趣味であったり、或いは社会活動であったりする。ただ肝心なことは、それが極めて個人的な事であり、世に知らしめようとか、人に影響を与えよう、などといった、世俗的な魂胆はない、ということである。

これを「生き甲斐」という。

生き甲斐は、その人にとっての生きる目標であり、人は生ある限り、自らの目標を持って生きる。原住のアメリカ・インディアンの太鼓や、ブラジルのサンバは、彼の地で多くの人々の生き甲斐であっただろうが、それらの伝統は、暮らしのリズムと深く関わっているように思われる。

日本の場合には、アメリカやブラジルの様に、派手なアクションは連想されない。

だが、京都、詩仙堂の「鹿おどし」のような、思いがけない「カーン！」と言う澄んだ音に、日本の伝統芸能である「能」や「神楽」における「間」や「拍子」と同様の、空白に対する感性を感じるのである。「暮らしの間」である。

☆☆ 土崎地区 ☆☆

令和元年度のクリスマスツリー作り

生涯学習奨励員 佐藤 美枝子

「みなと女性セミナー」に加入して十年目となりました。昨年、委員長となり、年間学習内容の話し合いをしている中で「何かやってくれないか？」と言われ、私に出来る事は何だろうか色々考えてみました。以前仲間と作った「クリスマスツリー」を思い出し、これなら私にも教えることが出来るかもしれないし、「みなと女性セミナー」の皆さんも作ることが出来るかもしれないと思い、早速、役員の皆さんに見てもらったところ、「あ！いいですね。是非お願いします。」とのことで、十二月の学習内容に決定しました。

「クリスマスツリー」とは、三角に切った発砲スチロールに、三センチくらいの三角に切った小さな様々な色や柄の布を、爪楊枝にポンドをつけて差し込み、ワンコインで購入できるフォトスタンドに貼り付けただけのものです。

必要なものが揃ってれば、二時間で完成することが出来ると思います。

布を差し込むだけとは言うものの、一つのツリーに必要な小さな布は百五十枚から二百枚くらいです。この布の準備が大変でした。

色々な布が沢山必要となり、私は手芸が趣味なので、残り布やハギレは持っているつもりでしたが全く足りません。多くの仲間から提供を受けて、

もちろん買うこともしました。布が集まれば今度は三センチの三角の小さな布に切らなければなりません。毎日毎日時間を見つけては切っていたような気がします。他に必要なものはすべて揃えることが出来ました。

「みなと女性セミナー」の会員数は百一人です。八十パーセントの参加を想定しても、八十人分の準備が必要です。

また、八十人の皆さんに私が一人で教えることはとてもできません。セミナーは八班で構成されていますので、それぞれの班長さんと副班長さんに一ヶ月前に試作していただきました。そして十二月の学習の日には班長さん副班長さんが先生となり、自分の作成した「クリスマスツリー」を見本として、自分の班の皆さんの作業を手伝ってもらう事にしました。

いよいよ学習当日です。初めは小さな布を差し込む作業に戸惑っていましたが、色合いを考えながら徐々にそれぞれの個性のあるステキな作品が出来上がりました。お互いの作品を見て、可愛い、ステキ、綺麗、などととても喜んで満足していました。

私も準備に苦労したことなど忘れて嬉しい一日でした。そして、次は何を作ろうかと考えている自分があります。

でも、令和二年度は「みなと女性セミナー」の開講が半年遅れとなり、何も出来ない年となってしまいました。

新型コロナウイルスの早い終息を願っています。



できあがったツリーに皆さん大満足



八十人を八班に分けて作業を行った

☆☆西部地区☆☆

真砂婦人学級に学ぶ

学級生 松永礼子

真砂婦人学級は、現在まで五十年以上の歴史があり、まさに新屋魂そのもの。

目的は女性の社会参加と知識教養を高め、学習成果を地域に還元できる機会を提供すること。

月一回の学習会で、女性会員三十名位で熱心に聴講しており、内容は生活に関連した事柄が多く、健康・災害・環境から文学に至るまで多岐にわたる。

移動学習は県内各地の特色が体験でき、新しい発見がある。健康面の学習では、高齢者に多い生活習慣病について学習し、毎日の生活習慣を見直すなど、予防の大切さを学んだ。例えば、普段良く耳にする糖尿病、高血圧、認知症などは、ロコモなど自分のできる身近なことから始めると良い。歩行を例にすると、高齢者は一日六千歩以上が目安だが、車社会では無理もあろう。一気の歩行は不可でも、都合の良い時間帯の歩きもプラスして良い。又、体調や天候が悪い時には、家の中の歩行体操や家事も効果的だ。基本的に食事は日に三回、バランスの良いものを食べ、質の良い睡眠を心がける。週一回以上の運動を行い、近所付き合いなど、外での人間関係を良く保つこと等が健康寿命を伸ばすことに繋がり、要介護期間も短縮される。

環境ゴミ問題は主婦の目標でもあり、いま日本では、一日一人茶碗一杯の食物が破棄されている

といわれている。在庫を確認した上で調理や外食の注文は食べられる量とし、無駄を省く。冷蔵庫の整理は経済的効果がある。

学級を受講することによって、知識や視野が広がり、明日への生きる指針となる。日赤奉仕団に参加し、地域に貢献して、住民から感謝されている学級生もいる。

高齢者の生き方として先々の事をよくよく考えず、感謝と笑顔を忘れず、可愛い素直な老人をめざし、周囲の人々に好感をもたれ、自分も幸せな日々を送ることができる。

代表や学習係さんの尽力、学級生の共助に感謝し、多くの人が会場に足を運んでくれる事を望み、学級のさらなる発展を祈願致しております。



市環境部によるゴミ減量講座の様子

☆☆ 東部地区 ☆☆

できることを気負わないで

生涯学習奨励員 鈴木 啓子

令和二年は新型コロナウイルス禍の一年でした。総会や恒例の行事、研修会のほとんどができず、大変残念でした。

そのような中で、予防対策をしたうえで行われた地域活動の一つに、明德小学校の「読みきかせ」があります。

毎月一回、授業開始前の八時二十分から十五分間、各クラスで行います。また、「おはなしの森だより」を事前に配布しています。これには、A4判一枚両面に、読む本や季節のあいさつ、詩やおすめの図書を掲載しています。

各メンバーの持ち回りで、それぞれの工夫とスタイルで作成していますが、この一月で通算百四十号を数えています。

現在のメンバーは十五人で、二〇〇四年の発足以来の方が七名、明德小学校区以外からの参加者も多くいます。こんなに長く続けられたのは、校長先生はじめ、教員の皆さんのご理解があったこととはもちろん、子供たちの喜ぶ顔が見たい、というメンバーに共通の強い気持ちがあったことと想っています。

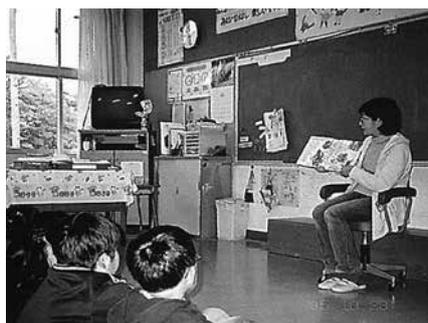
ほかには、地域の見守り活動があります。私の住む手形山崎町地区にも高齢者はたくさんおられます。歩行が困難になった方と申し合わせて、週二回のゴミ出しの日に、勝手口に出してもらったゴミ袋を集積所まで運んだこともありました。別の方ですが、ある時テレビのリモコンが使えなく

なった、とのSOSがあり駆け付けたところ、電池が古くなっていたのを交換して解決。ついでに暗くなった蛍光灯を付け替えて喜ばれたこともあります。

私たちにとっては何でもないことでも、大変苦勞している方もおられます。

これからも、気軽に声をかけてもらえるような関係を築いていきたいと思っています。

コロナ禍で奨励員の活動も制限されていますが、目の前のできることにしっかり取り組みたいです。



予防対策をしながら活動を継続



目の前のできることにしっかり取り組む

☆☆ 南部地区 ☆☆

初心者マークの生涯学習奨励員

生涯学習奨励員 畠山 育子

生涯学習奨励員という聞きなれない響きに戸惑いながら、一員となり七年目です。何をどうすればいいのか会議等での皆様の発言に耳を傾けたり、様々な講話や研修を通して少しずつ勉強している、まだまだ新米奨励員です。

奨励員になって、まずはコミセンや公民館に行く機会が増えました。そこにはたくさんの方のサークルがあり、参加している皆さんの生き生きとした姿に熱くなりましたし、運営に携わる方々の手際の良さに圧倒された私です。

また、なげあび別館で行われた「ポッチャ」の参加も初めてでした。思った所に行かないもどかしさと、力の加減がわからず四苦八苦の中、まぐれのピンポイントショットに、初めて会った隣の方と喜んだり笑ったり、楽しい時間を過ごすことができました。

思えば、私と公民館の関わりは、子どもが小さかった時、公民館で家庭教育学級に参加し、子育てに自信が無く余裕の無い私に安心を与えてもらったことから始まっています。

子どもが巣立ち、今度は私自身の生涯学習を考える年齢となった今、面倒くさがらず、引きこもらずに、知らなかった世界を経験して行動範囲を広げること、仕事や地域だけではない人とのつながりを大切にしたいと思っています。

自分に合ったやり方で無理せずに、私と同じように生涯学習を考えている皆さんの応援・協力をさせていただければ幸いです。

☆ ☆ 北部地区 ☆ ☆

今できることをみつけよう

生涯学習奨励員 中 泉 雪 子

久しぶりに友人に電話をかけた。今家に帰ったばかりという。八十代の母親が認知症になり、日中は実家に行き、家族が帰るまで見ており、夜間は睡眠導入剤を飲み眠る。週三回デイサービスに出かける。その時は本当にほっとするとのこと。私達の年齢ってこんなものかしら？

だからといって、友人は、介護施設に入所させることはまだ考えていない。将来を見据えて今できることをしているの、幸せに思うという。

別の友人は、夫が七十代で病気がちとなり、又、少し物忘れもあり、病院に付いて行くと愚痴をこぼしている。それぞれに家族がおり支え合っている。

若い頃は自分が病気になるなんて考えもしなかったでしょう。加齢と共に、生活習慣の中で健康を損ねておられる方もいるでしょう。

特に秋田県は、がん検診率において全国平均値より低いといわれており、病気の早期発見・早期治療は大切だと呼びかけられています。質の良い生活を維持するためには病気がないにこしたことはないが、病気と上手に付き合っていくことも大切だと思います。

人生百年などと言われる今、健康に過ごすことができたなら素晴らしいと思います。しかし、誰もがそうとは限らない。小さなことを積み重ねて自立して生きたいと、誰もが願うことでしょう。

いつまでも、元気で陽気に生活するため、今日一日を大切に過ごすことを改めて気づかされました。



☆☆ 河辺地区 ☆ ☆

サークル活動と健康寿命

河辺の郷自治協議会

会長 鈴木 勉

本県は「目指そう健康寿命日本一」を掲げており、介護を受けず綺麗に年齢を重ね、いつまでも自力で生きることが目指しながら、だれもが日々過ごしている。

若さを保つ秘訣は、人との交わりである。積極的に外に出歩き、人との出会いを求め、仲間同士で喜怒哀楽を体感する。刺激を得、元気をもらうことで、意識せずとも、老いのスピードにブレーキがかかる。

そんな場を与えてくれるのがサークル活動である。河辺の郷自治協には三十の各種サークルがあり、二百人を超える人たちが活動を続けている。

会員の人達は、瞳を輝かせ活動日を心待ちにしている。そこには、前述したような意識が、知らず知らずのうちに生まれているのではないかと。その発表の場として、毎年九月に「河辺のすべてをまるごと見せよう」をキャッチフレーズに、「まるごとまつり」を開催している。

今回は、昨今の情勢から開催を断念したが、毎年、発表の場として継続的に開催をしていきたい。さらに二月には「音楽祭」を開催し、発表の場を広げている。音楽は、発表する会員はもとより、発表の会場に駆けつけ、視聴される観衆の方々も、情操が豊かになる。帰り際に「楽しかった」「心が洗われた」と満足して帰路に着く。その姿を見るたび、音楽の持つ力はすごいものと、改めて思っている。

家に引き込まれず、積極的に仲間と交わり刺激をもらいたい、年齢を重ねていくことを忘れさせてくれるのがサークル活動と感じている。

お互い健康寿命日本一を目指し、日々充実した毎日を過ごしていこう。





来館者全員で秋田県民歌を合唱
(写真は昨年の様子)

☆ 雄和地区 ☆

不要不急の価値

生涯学習奨励員 石井 榮美

令和二年は、年が明けてから一年間というものの、新型コロナウイルスに翻弄された年でした。日常の暮らしは一変し、良くも悪くも、コロナを通して世の中の色々な事象を教えてもらった思いがします。

コロナ禍で三密回避や外出自粛が叫ばれ、私の月一度のささやかな趣味の書道サークルも、不要不急だからと活動を控えてみると、人生には如何

に不要不急が多いかに気付き、同時にむしろ人生は、不要不急の事柄に支えられ、気持ちが救われたり、日々の暮らしを豊かにしてくれていたのだと気付かされました。

一時期控えた活動も今は再開し、十二月のサークルでは、来る年の干支を書きました。『牛』の字や、墨の濃淡を変えたり、顔彩で鮮やかにしたり、紙質や色紙の柄を選んだりして、牧場のおっとりした牛とか、コロナに負けじと猛り立つ闘牛とかをイメージしながら、それぞれ個性ある味わい深い作品を書き上げました。

あらゆる芸術や趣味、生涯学習と言われるものは、たとえささやかであっても人を感動させ、心を豊かにし、長閑（のどか）にする力があるが故に尊いのだと思います。

大好きな人達に、好きな時に会う。行きたい場所に、すぐに行く。他愛もないおしゃべりをして、温かい気持ちになる。『あたりまえ』の事が、『あたりまえ』にできる幸せと、不要不急の価値を大切に思いながら、これからも皆さんと研鑽し合い、無理せず気負わず、何よりも和を以て書を楽しみ、長く続けて参りたいと思っております。

令和三年はコロナを克服し、皆様ご健勝で、明るい一年になるよう祈っております。



趣味が日々の暮らしを豊かにする



コロナに負けじと猛り立つ闘牛

第四十二回秋田市生涯学習奨励員 研究大会を開催しました。

令和二年十一月十七日、イヤタカを会場に研究大会を開催しました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設見学および情報交換会は開催しない等、例年とは異なるプログラムでしたが、五十五名の方々に参加していただき、講師である県生涯学習課畑中学芸主事の講話に大盛り上がりでした。

この場をお借りし、奨励員の皆様、県畑中学芸主事に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



研究大会では古文書について学んだ

秋田県生涯学習・社会教育研究大会 (記念大会) がオンライン開催されました。

令和二年は秋田県生涯学習研究プロジェクトチーム設置から五十年、現秋田県生涯学習奨励員協議会結成から四十五年など、生涯学習・社会教

育の節目の年にあたることから、令和二年十一月十三日、県が主催する記念大会がオンラインで開催されました。

本市でもセンタースやウエスタリーの大会議室をサテライト会場として映像を配信し、生涯学習奨励員をはじめとする関係者の方々が参加しました。



センタースでの記念大会の様子

東部地区生涯学習奨励員の活動が ケーブルテレビで取り上げられました！

令和三年一月五日、世代間交流事業や奨励員の活動、むかしあそびの披露等、ケーブルテレビで放送されました。

Youtubeからも視聴できます。

皆さん、是非ご覧になってください。

アドレスは左記のとおり

youtube.com/watch?v=Q5OmBO2nozC

【動画タイトル】

「ばたこって? なつかしい遊びをハイライトでどうぞ♪」

【連載】社会教育・文化施設等
たまには、古文書パラダイス

秋田県教育庁 生涯学習課

畑 中 康 博

江戸時代の古文書の解説と整理に情熱を燃やすボランティア活動の話を紹介したい。

平成二十二年四月、秋田県立博物館に転勤し、収蔵庫で驚いた。昭和五十年の博物館開館以来、未整理のままとなっている古文書が大量にある。五千点は下るまい。誰も読んだことのない古文書は、生涯学習格好の教材。何より、この整理作業の面白さは、ぜひ皆で分かち合いたい。

「三度の食事より古文書が好きな方、集まれ」

このキャッチコピーに、北は大館市、南はにかほ市から、熱き古文書ファンが集まった。

三年間、目録の作り方をみっちり仕込み、平成二十六年「秋田県立博物館友の会 古文書整理ボランティア」が発足した。

取り組んだのは、保呂羽山波宇志別神社（横手市大森町八沢木）で神主を勤めた守屋家の古文書。通説では、嘉永六年（一八五三）一月、屋敷が火事になった責任を問われ、守屋家当主は神主罷免、国境岩館に追放されたとある。しかし、この通説が、目の前にある古文書の内容と合わない。整理作業を進める中で、火事の後も守屋家は神主を勤め、神主を辞めたのは、明治二年（一八六九）に秋田藩士に取り立てられたからだということがわかった。

「古文書を解説し、私たちの手で新しい歴史像を築く」何とロマンに満ちあふれた作業でしょう。月に二回の古文書パラダイス。興味のある方は、秋田県立博物館に御一報を。もちろん、古文書初心者大歓迎。（ただし、相当勉強して頂きます）



▲アフター

（目録が作成され、古文書は一点ごとに封筒入りに。誰もが使用可能な状態となる）



▲ビフォー

（この状態で古文書を抜き取ると、戻した時に順序が変わるので、展示・研究に使用できない）

【令和二年度秋田県生涯学習奨励員

協議会表彰】

表彰者

中央地区生涯学習奨励員

根田 貞子

常盤 誠

中村 宏

東部地区生涯学習奨励員

我妻 弘思

西部地区生涯学習奨励員

佐々木 政志

伊藤 和子

南部地区生涯学習奨励員

小田原 里子

佐藤 美智子

塚田 朋子

河辺地区生涯学習奨励員

石塚 小枝子

【令和二年度秋田県公民館連合会表彰】

表彰者

（個人）

東部地区生涯学習奨励員

秋山 勇吉

鎌田 重憲

南部地区生涯学習奨励員

鈴木 捷策

土崎地区生涯学習奨励員

船木 ひとみ

（団体）

雄和子育て支援グループ

代表者 金 育美

おめでとうございます。

今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

※敬称略

編集後記にかえて

新たな年を迎え、日に日に、寒さが増し、いつもなら鍋でも囲んで、みんな集まる時期を思います。

コロナ禍の中で三密を思えば気が引け、動きもとれず、皆様も大変の事と、一日も早い終息を願う日々。

このような状況でも、皆様のご協力であしたの風を発行できたことに、心から感謝申し上げます。

今年は、秋田市にとって「こでらえね（たまらなくいい）」ことに溢れ、皆様の幸多い年になることを祈念しております。（石塚）

編集委員（秋田市生涯学習奨励員）

佐々木 孝（中央） 佐藤 美枝子（土崎）

伊藤 キヨ（西部） 鈴木 啓子（東部）

藤原 博子（南部） 中泉 雪子（北部）

石塚 小枝子（河辺） 竹下 潮子（雄和）

『あしたの風』第九十一号・第九十二号

（合併号）

発行年月日

令和三年二月一日

編集発行

秋田市教育委員会生涯学習室
秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八―八八八―五八一〇

この広報誌は

発行部数 一一一〇〇部

配布方法 無料配布